

## キリストの御名によって ヨハネ14:1~14 / 李正雨師

昨年11月、世界の人口は80億人を越えました。2080年になると、100億人を超えるそうです。そして、この世界人口の半分以上の人々は、同じ神様を信じています。まさに私たちが信じている神様です。世界で一番大きい宗教は、キリスト教です。次はイスラム教です。そしてユダヤ教は、十番目に信者の多い宗教です。この三つの宗教の共通点は、信じている神様が同じだということであり、違う点は、神様に対する解釈が異なるということです。聖典も重なる部分がある反面、まったく違う部分もあります。ユダヤ教ではタナクと呼ばれる旧約聖書、キリスト教では旧約聖書と新約聖書、イスラム教ではコーランが聖典です。ユダヤ教のタナクとキリスト教の旧約聖書はほぼ同じですが、イスラム教のコーランとは違います。しかしイスラム教のコーランでは、キリスト教の旧約聖書と新約聖書と重なる内容がけっこうあるそうです。

それぞれが重要に思っているところも違います。ユダヤ教では、トーラと律法を最も重要に思い、神様の言葉が預言された預言書がその後に続きます。そして、新約聖書とイエス様のことを拒否します。イスラム教では、神様の啓示を受けたムハンマドが書いたコーランを重要に思います。しかし、ムハンマドはメシアではなく、預言者の一人です。コーランでは、旧約聖書のアブラハムとモーセも預言者として登場しており、イエス様も預言者として認められています。しかし、私たちのキリスト教は、福音書、イエス様の言葉を最も重要に受け入れています。それで、旧約聖書もイエス様と関連づけて解釈しているだけでなく、イエス様のことを通して神様のことが分かります。これらのことがユダヤ教とイスラム教との違うところです。人が永遠の命を得ることも、神の国に入ることも、みんなイエス様によってです。人が善い行いをし、宣教をし、神様の言葉を守ることも同じです。イエス様はこれを命じられ、私たちのために犠牲にされ、私たちの信仰のために聖霊をお遣わしになったからです。そして今日の福音書には、このようなキリスト教の色彩がよく現れています。今日の福音書はこう始まります。「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、私をも信じなさい(1節)。」この言葉は、イエス様が弟子たちの信仰のために、ご自分が誰であることを示す言葉です。

今日の福音書の前の箇所、イエス様は弟子たちに衝撃的な話をなさいます。3つくらいで整理することができますが、一つは、弟子たちの一人がご自分を裏切るということであり、もう一つは、弟子たちがご自分に従わないということです。そして最後に、ペトロさえも、ご自分を離反すると言われます。イエス様のこの言葉は、弟子たちを不安にさせました。イエス様に従えない状況、イエス様のない状況が来るとは、想像もできなかつたからです。しかし弟子たちは、まもなくイエス様のない生活をしなければなりません。イエス様は、神様の御心を成し遂げるために十字架にかからなければならなかつたからです。それでイエス様は、弟子たちの信仰を固めるため、神様を信じ、ご自分をも信じなさいと言われたのです。そして、なぜご自分が弟子たちと共にいることができないのかを教えてください。2節の言葉です。「わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。」

ここで「住む所がたくさんある」という言葉は、父の家が大きいという意味だけではありません。父の家がより多くの人々を受け入れるため、いつも開かれているということと言われるのです。神の国は大きいだけでなく、私たちのためにいつも開かれています。これは、私たちの信仰にとって非常に重要な言葉です。時々、私たちは罪によって信仰的、良心的に気を落とすことがあります。そして、神の国に入ることができないかもしれないという思いによって不安になることもあります。しかし、これらの考えは、神様が与えてくださる考えではありません。イエス様の十字架は、私たちの大小の罪によって左右されないからです。私たちの善い行いが神様の御心を動かすことのないように、私たちの罪もイエス様の十字架を動かすことはできません。ですから、罪を犯したということによって、神の御心にふさわしくなかつたということによって、気を落とさないでください。悔い改めて、仲直りして、再び信徒としてイエス様の道に従って歩んでください。そのために、イエス様は「わたしの父の家に住む所がたくさんある」と言われました。

ところで、2節の文章が少し合わないようです。2節と3節をよく読んでみてください。2節には、「わたし

の父の家には住む所がたくさんある」と書いてあるのに、3節には、「行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える」と書いてあります。住む所がたくさんあるのに、場所を用意するというこの言葉をどう思ったらいいでしょうか。私もこの言葉が理解できなかったのですが、悩まされましたが、意外と解決は簡単でした。句読点による翻訳の違いでした。原文を見ると「ὁτι(ホテイ)」という言葉が書かれています。句読点による文脈の流れ上に翻訳されなかったということが分かりました。「ὁτι」は「なぜなら～からである」という意味を持っている言葉です。ところが、翻訳されなかったこの言葉は、この文章で大きな役割をしていました。私がこの言葉を入れて、句読点を変えて文章をまとめてみます。「わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、言ったであろう。なぜなら、あなたがたのために場所を用意しに行くからである。」そして、続いて3節です。「行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。」いかがでしょうか。文章は自然につながりますよね。イエス様は、ご自分のことによって不安になっている弟子たちに、ご自分が何をなさるかを教えてくださいました。そしてこう言われます。「わたしがどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている(4節)。」

しかし、弟子たちはこの言葉を理解していませんでした。イエス様についての理解が、今の私たちとは違っていたからです。当時のメシア、神の子の意味は、非常に肉的なもの、世俗的なものでした。ローマの皇帝も神の子として呼ばれていたということがこれを示しています。弟子たちは、イエス様をメシアとして受け入れていましたが、彼らが考えていたメシアは、ローマの皇帝とそんなに変わらなかったと思います。ですから、今日の福音書のイエス様の言葉は、弟子たちにとって不慣れな言葉でした。弟子トマスはこう言います。「主よ、どこへ行かれるのか、わたしたちには分かりません。どうして、その道を知ることができるでしょうか(5節)。」そして、弟子フィリポはこう言います。「主よ、わたしたちに御父をお示してください。そうすれば満足できます(8節)。」

ここでイエス様は、ご自分が道であり、真理であり、命であることを言われます(6節)。そして、ご自分を見た者は、父を見たのだと言われます(9節)。ご自分と神様は同じであるということをお教えるためでした。そして、これは今日の福音書10節でよく現れています。「わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか。わたしがあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行っておられるのである。」イエス様は、人と神様の間に絆の役割を果たす方だけではありません。神様ご自身。この世に来られた神様なのです。キリスト教のメシアは、ローマの皇帝のような世俗的な神の子ではありません。神様の御心をこの世に啓示される神の御子、神様そのものなのです。それでイエス様は、「もしこれを信じないなら、ご自分の業そのものによって信じなさいと言われます(11節)」と言われます。イエス様が行われた業が神様を現わす御業であるからです。

そして、この流れの中で12～14節を見なければなりません。そうでなければ、イエス様の言葉を誤解する可能性があると思います。今、私の後ろの画面には、12～14節の言葉が書かれています。この文章だけを読めば、イエス様の名によって何でも求めれば、成し遂げられると思うことができます。しかし、全体的な文章の流れから見ると、イエス様が神様のもとに行かれるため、イエス様は神様の御心を示されたため、イエス様の御名によって願うことを言われるのです。そして、このようなことを通して、神様は栄光をお受けになります。イエス様が神様の御心を示されたように、イエス様を信じる者たちも、神様の御心を示すからです。神様のこのためにイエス様の名によって祈る人々。彼らがまさにキリストに従う人々なのです。

だから私たちは毎週礼拝が終わる前に私たちの隣人のために祈ります。戦争と独裁によって被害を受ける人のために、貧困と病気に苦しめられる人々のために、イエス様の御名によって祈ります。そして、この祈りによって神様は栄光にお受けになります。私たちが神様の御心に従っているからです。イエス様の御名によっていつも祈ってください。イエス様が行われたことを行ってください。このことによって、神様は栄光をお受けになり、私たちの信仰は一層深くなるのです。気を落とさず、主の道に従って歩いていく皆様になりますように。道であり、真理であり、命であるイエス様がいつも皆様と共におられますように、主の御名によって祈ります。アーメン